

このとおり、学校評価について報告いたします。

高松市立 多肥 小学校 校長 溝内 哲也

印

	評価項目	評価 4段階	自己評価結果と改善方策等	学校関係者評価結果および意見等
1	確かな学力の育成に関すること (学力向上、キャリア教育、英語教育、情報教育等)	3	「学ぶことをおもしろがる子どもの育成」を目指し、自ら問いを生み、問題解決するための単元の工夫を行い授業改善を図った。子ども主体の授業づくりを意識して取り組むと学習意欲が高まることが確かめられた。	<p>・保護者アンケートから、児童の読書離れ、進んであいさつ、運動や遊びへの取り組みが課題として考えられた。臨時休業が長かったために、本に関わるよりもパソコン・スマートフォンの使用が増えたこと、図書室の3密を避けるために本の貸し借りの機会が減ったことは仕方がない、という意見をいただいた。また、地域の方から見るとあいさつをする児童は多く、あいさつの大切さを考える指導は引き続き行うが、一概にできていないとはいえないという意見もあった。</p> <p>・今年度は、感染症予防対策や新しい生活様式を身に付けることに力を注いできたが、教職員と保護者がそれぞれの役割を果たして児童を支えてきたことに保護者アンケートから一定の理解を受けたといえるので、これからも緊密に連絡を取り、地域の方の協力も得ながら取り組んでいきたい。</p> <p>・地域の中には学校を支えるいろいろな団体が学校支援をしているが、発足当初の思いを引き継ぐことが難しくなったり、コロナ禍で集まり、話し合う機会が激減したりしている。児童が地域の方と共に活動することも減ってはいるが、いろいろな団体の方に連絡がすぐに取りれるようメール等の連絡網を組織していきたい。</p> <p>・多肥の町興しの象徴ともいえる桜の木（ソメイヨシノ）を歩道橋設置工事が終わった後に正門近くに植樹することを決定した。</p>
2	豊かな心を育てる教育の推進に関すること (道徳教育、小中一貫・連携教育、ふるさと教育、読書活動、体験活動等)	3	他教科との関連も考え、道徳教育の充実を図るために年間指導計画の見直しを行った。ICTの活用や操作的活動を取り入れたことで「議論する道徳」を実現するための授業改善が実践できた。	
3	生徒指導の充実に関すること (いじめ、不登校対策等)	3	月ごとの生活目標に柔軟性をもたせ、自分の課題を考え途中で見直すことができるようにした。いじめアンケートから悩みの早期発見・早期解決を心掛け、学校での悩みを把握し同学年教師や生徒指導主事、管理職と情報を共有することができた。	
4	運動に親しむ習慣づくりと体力の向上に関すること (体力・運動能力の育成)	2	休み時間を効率的に学年団に振り分け、時間と場所を工夫して体を動かす機会を増やした。クラスマッチやスポーツ大会を学年で分散開催することで運動に親しむ習慣を大切にしたい。	
5	食育の推進と心身の健康づくりに関すること	3	センター給食への移行の年となり、栄養教諭との連携を密にとり食育指導を行った。感染予防対策を徹底するために新しい生活様式の定着を繰り返し指導した。	
6	学校人権教育の推進に関すること	3	感染症による差別や偏見をなくすことを意識した授業を全学年で取り組んだ。人権学習も計画通り実践し、学んだことを人権集会で発表し、意識の高揚や保護者啓発に努めた。	
7	特別支援教育の推進に関すること	3	専任コーディネーターが配置されたことで、通常学級に在籍する要支援児童への柔軟な対応や保護者との教育相談の時間が十分に確保できるようになった。	
8	教員の資質向上と教育指導体制の充実に関すること (職員のコンプライアンス・現職教育等)	3	令和4年度の全国大会（理科）に向けて新学習指導要領のめざす「主体的・対話的で深い学び」について現職教育で講話や指導助言から教員の資質向上を図るために計画的に研修を行った。	
9	安心・安全で質の高い教育環境の整備に関すること	3	感染症対策を行いながら、様々な事態を想定して班活動や集団下校を行い、下校ルートや集合場所の見直しを保護者と相談しながらより良いものに改善している。ポンプ式石けん・消毒液・お手ふきの購入や教室に応じた換気の実施など感染症対策を学校医の指導の下実施した。	
10	家庭や地域との連携・協働に関すること (高松型コミュニティ・スクール等)	3	家庭や地域に対し学校・学年便り、HP、ブログを活用しながら、計画的に情報を共有し協働できている。	
11	夏季休業日の短縮に関すること ・学力の定着（補充的な学習の充実） ・教師と子どもが向き合う時間の確保 ・ゆとりある教育課程の展開（ゆとりある学習進度等）			
12	働き方改革・業務改善に関すること (時間外勤務の削減等)	2	校務支援システムのお知らせ機能等を積極的に活用することで終礼を止め、必要に応じてPT会を実施するなどして会議を減らし、時間外勤務の削減に努めた。	

